

阪神・淡路大震災追悼

1月16日（金）阪神・淡路大震災追悼を朝の SHR の時間を延長し、放送で、31年前震災で亡くなられた方への追悼を捧げました。

校長から全校生へ

1995年1月17日 午前5時46分（M7.3）、日本における戦後初めての大都市直下型地震である阪神・淡路大震災によって、死者・行方不明者6,437人の尊い命が失われました。

この出来事は、みなさんが生まれる前のことかもしれません。しかし、震災の記憶は「過去の出来事」ではなく、今を生きる私たち一人ひとりにつながっています。

震災は、多くの悲しみと同時に、人と人が支え合うことの大切さを教えてくれました。見知らぬ人同士が助け合い、声をかけ合い、手を取り合った姿は、今も私たちの社会の土台となっています。

高校生であるみなさんは、これからの社会をつくっていく存在です。

災害はいつ、どこで起こるかわかりません。だからこそ、

****「命を守る行動を考えること」「人の痛み想像力を持つこと」**

「学びを次につなげること」がとても大切です。**

今日という日に、亡くなられた方々に思いを寄せ、

「自分に何ができるか」「誰かのためにどう行動できるか」を考えてみてください。その一つひとつの思いが、防災や共助、そして未来への希望につながっていきます。

命の尊さを胸に、今を大切に生きていきましょう。

避難に絶対のルールはありません！

想像力を働かせ、知恵を出し合い

助け合って命を守っていきましょう！